

自民党の東日本大震災復興加速化本部長が来町



↑ふたば未来学園高校を視察する額賀本部長

5月16日（土）、自由民主党の額賀福志郎^{ぬかがふくしろう}・東日本大震災復興加速化本部長、復興庁幹部、地元選出国議員の一行が広野町を訪れ、遠藤町長はじめ町幹部職員と懇談し、ふたば未来学園を視察しました。町長は、額賀本部長に対して町の現状を説明し、①賠償に代わる新たな支援制度、②作業員宿舎などの建築規制、③農業用ため池の除染・フォローアップ除染、④浄水施設への財政支援をはじめ、復興に向けたさまざまな支援を要望しました。

イオンリテールと商業環境整備に関する覚書を締結



↑商業環境整備に関する覚書調印式の様子

広野町は、4月24日（金）、広野町役場でイオンリテール株式会社と広野町における商業環境整備に関する覚書を締結し、遠藤町長と同社の家坂有朋取締役専務執行役員・東北カンパニー支社長が覚書に調印しました。覚書の目的は、町民の帰町促進のため、住民サービス向上の一環として商業環境整備などに関し相互協力することです。

具体的な事業として、この夏、広野町が店舗を設置し、同社が核店舗として出店する公設の複合商業施設「(仮称)広野ショッピングセンター」を新設します。

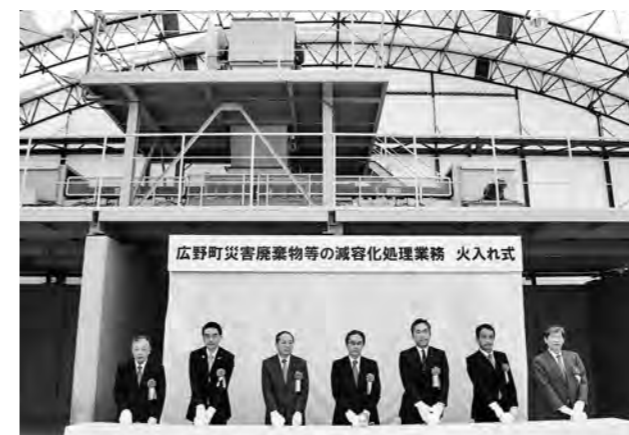
改選された行政区長による行政区長会議を開催



↑行政区長会議の様子

4月27日（月）、広野町中央体育館ミーティングルームで、平成27年度の行政区長会議を開催しました。今年度は行政区長の改選期に当たるため、会議の冒頭、遠藤町長が委嘱状を交付しました。そののち、各課長が平成27年度の重点事業などを説明しました。

災害廃棄物などの仮設減容化処理施設が稼働



↑仮設減容化処理施設の火入れをする関係者

4月27日（月）、町内大字下北迫字岩沢地内の「広野町災害廃棄物等仮設減容化処理施設」の火入れ式が挙行され、鈴木正規環境事務次官や遠藤町長らがボタンを押して炉に点火しました。処理対象物は広野町で発生する災害廃棄物、除染廃棄物、農林系廃棄物のうち可燃性廃棄物です。この施設は、広野町の代行要請に基づいて、環境省が建設および運転をするものです。減容化処理は、平成28年度までに完了して、平成29年度に施設を解体撤去する予定です。

文化庁次長が桜田IV遺跡を視察



↑桜田IV遺跡を視察する有松文化庁次長

4月24日（金）、文化庁の有松育子次長が広野町を訪れ、町内大字下浅見川字桜田地内の桜田IV遺跡を視察しました。これは、災害公営住宅・広野原団地の造成工事中に見つけたもので、発掘調査したところ続日本紀（しょくにほんぎ）に記述のある駅家（うまや）の可能性があるので、遺跡の一部を公園として保存したものです。

「“幸せな帰町・復興”に向けた国際フォーラム」企画会議を開催



↑「“幸せな帰町・復興”に向けた国際フォーラム」企画会議の様子

5月12日（火）、広野町役場で第1回「“幸せな帰町・復興”に向けた国際フォーラム（仮称）」企画会議を開催しました。昨年6月に開催した国際シンポジウム『広野町から考える』で基調講演を務めた中山幹康東京大学大学院教授をはじめ、国内外の研究者や町民有志、ふたば未来学園高校関係者が出席し、海外研究者と町民の共同活動などについて、企画を討議しました。

春の全国交通安全運動街頭指導



↑春の全国交通安全運動街頭指導の様子

5月11日（月）から20日（水）までの10日間、春の全国交通安全運動が実施され、遠藤町長をはじめ町職員や警察関係者が、国道を走行するドライバーに安全運転を呼びかけ、役場前交差点で通学する児童、生徒の横断を見守りました。また、広野町安心・安全ネットワーク会議の会員事業所の従業員が、広野駅前街頭指導をしました。

4月と5月に住民説明会を開催



↑住民説明会の様子

4月22日（水）から25日（土）までの4日間と、5月27日（水）から30日（土）までの4日間、いわき市にある応急仮設住宅集会所や広野町公民館などで毎月6回、計12回の住民説明会を開催しました。4月開催住民説明会のテーマは、中間貯蔵施設への除去土壌などの搬出、生活再建支援（5項目）、ふたば未来学園高校の開校で、5月開催住民説明会のテーマは、応急仮設住宅の使用期限、平成27年度重点事業などです。